

(様式1)

令和3年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 026	提案機関名 農政部畜産課
要望問題名 環境制御型養豚施設の県内環境への機能最適化についての検証	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 環境制御型養豚施設実証試験については、昨年度より予備調査、夏季・秋季・冬季調査が進められ、飼養環境に関するデータが蓄積されてきている。特に、梅雨明けから夏季の高温時には生産性の低下が認められたため、通風の流れを変化させるなど施設の特徴に合った暑さ対策を取り入れることで改善を図ってきた。 当該施設は気候の異なるヨーロッパで開発されたシステムのため、県内環境で連続運用した際のメリット・デメリットを明らかにするためにも、実証農場としての存在意義は大きい。 今後、豚舎の新築や増改築に際して本システム（あるいは類似システム）の導入を検討する関係者が出てくることが想定されるため、最大限の効果を発揮できる運用ノウハウ（飼養頭数、豚房における風向き、風量、細霧装置の稼働時間・回数等、季節（夏季、冬季）による前記項目の違い等）を蓄積し提供することで、環境と調和した養豚の展開に貢献していただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 環境制御型養豚施設の実証試験（令和元年～2年度）		
対応の内容等	当所の環境制御型養豚施設は平成31年3月に運用を開始しました。令和元年度より行っている実証試験の成績から、暑熱対策の必要性が明らかになったため、令和2年度には細霧装置を導入し、暑熱対策の効果を検証中です。また、県内養豚農家が運用を開始した国内メーカー製の類似システム（脱臭システム付きウインドレス豚舎）についても、脱臭性能の調査に取り組んでいます。 今後も、ご要望の運用ノウハウの蓄積とあわせて、実証試験の成果については機会を捉えた情報提供に努めてまいります。		
解決予定年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			